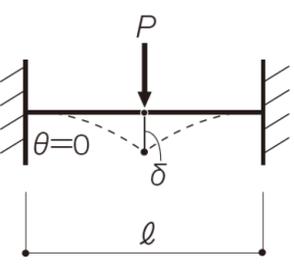
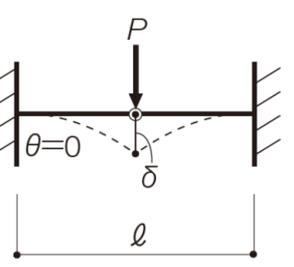
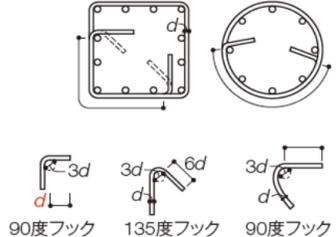
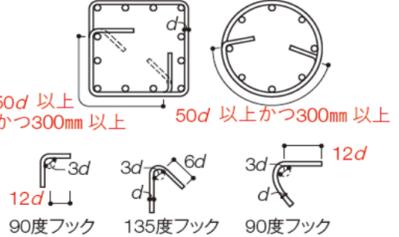


『ラクラク突破の1級建築士スピード学習帳 2025』 正誤表

2025年6月17日

科目	頁	該当箇所	誤 (訂正前)	正 (訂正後)																														
試験概要	12	過去5年間の合格率 [学科]令和6年の合格率	13.3%	23.3%																														
環境	100	●室内空気環境基準	一酸化炭素(CO) 10ppm以下(0.001%)	一酸化炭素(CO) 6ppm以下(0.0006%)																														
構造	377	最頻出問題の 問2	問題 選択肢 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R_A kN</th> <th>R_C kN</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>3</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>4</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table>		R_A kN	R_C kN	1	1	9	2	2	8	3	3	7	4	4	6	(選択肢2の数字) <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R_A kN</th> <th>R_C kN</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>8</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>3</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>4</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table>		R_A kN	R_C kN	1	1	9	2	8	2	3	3	7	4	4	6
	R_A kN	R_C kN																																
1	1	9																																
2	2	8																																
3	3	7																																
4	4	6																																
	R_A kN	R_C kN																																
1	1	9																																
2	8	2																																
3	3	7																																
4	4	6																																
		解答解説文	これより、 $P_1=2$ kN、 $P_2=8$ kNが得られる	これより、 $P_1=8$ kN、 $P_2=2$ kNが得られる																														
構造	387	実践問題の 問1	解答解説文 ②次に、トラス図形の幾何学的関係から、反力 $2P$ と荷重 P および N_{AB} のモーメントを計算するための「腕の長さ」を求めよう $2P \times (3\ell/2) - P \times (3\ell/4) - N_{AB} \times \sqrt{3}\ell/2 = 0$ $9P\ell/2 - N_{AB} \times \sqrt{3}\ell/2 = 0$	②次に、トラス図形の幾何学的関係から、反力 $2P$ と荷重 P および N_{AB} のモーメントを計算するための「腕の長さ」を求めよう $2P \times (3\ell/2) - P \times (3\ell/4) - N_{AB} \times \sqrt{3}\ell/2 = 0$ $9P\ell/4 - N_{AB} \times \sqrt{3}\ell/2 = 0$																														
構造	388	●梁の曲げ変形公式(最大たわみ δ とたわみ角 θ を求める公式) 不静定梁の左図	 $\delta = \frac{P\ell^3}{48EI}$ $\theta = 0$ (ヒンジなし)	 $\delta = \frac{P\ell^3}{48EI}$ $\theta = 0$ (ヒンジあり)																														
構造	441	実践問題の 問6	解答 × あまり影響しないため、考慮しなくて良い。なお、疲労設計に用いる部材の応力は、切欠きなどによる応力集中や溶接による残留応力を考慮する必要はない	○ あまり影響しないため、考慮しなくて良い。なお、疲労設計に用いる部材の応力は、切欠きなどによる応力集中や溶接による残留応力を考慮する必要はない																														
施工	522	右欄 ●スパイラル筋の重ね継手	 90度フック 135度フック 90度フック	 50d以上 かつ300mm以上 50d以上かつ300mm以上 90度フック 135度フック 90度フック																														